

FMいわき開局30周年記念イベント 30年のありがとう！



いわき芸術文化交流館アリオス

9/13(日)



＼感謝を胸に、これからも情報を発信／

いわきを「こえ」で支えてきたコミュニティ放送「FMいわき」が9月1日に30周年を迎えました。

記念イベントでは、番組の舞台裏や30年の歩みを振り返るユーモア溢れる熱いトークが繰り広げられ、会場は笑顔と拍手に包まれていました。

また、今年3月、FMいわきがNHK「新プロジェクトX」で紹介されたことから、メインキャスターの有馬嘉男氏などをゲストに招いたトークショーも行われ、観客は熱心に耳を傾けていました。

31万人のまちづくりビジョン策定プロジェクト 未来ビジョン公表イベントを開催



Paix Paix(ペッペ)

10/3(土)



＼市民の「こえ」で描く、私たちの未来／

本市の今後のまちづくりの柱となる「未来ビジョン」公表イベントは、吹奏楽団いわきシンフォニックウインドアンサンブルによる「いわき市歌」から幕が開けました。ビジョン策定に携わったメンバーから、決定に至るまでの経緯や思いが語られたほか、本紙でもおなじみのいわき地域学会小宅幸一氏の歴史講座なども開催しました。

本イベントをスタートに、これからも市民の皆さん一人一人の「こえ」を集め、ビジョンを育てていきます。

写真が語る「いわき」の歴史 通称名から行政名へ、「六町目」

いわき地域学会 小宅幸一

江戸時代から商店が林立していた、平の商業中心地・一丁目から五丁目の区域は、時代の波をくぐりながら、明治時代から大正時代へ一層の賑わいをみせました。一方、五丁目から東は江戸時代には立町、さらに正月町、^{しょうがつまち} 榑宜町^{ねぎまち}と浜街道に沿って家屋が続いていましたが、地味な存在でした。

大正時代になると、好景気を背景に立町、正月町、榑宜町の国道から離れた背後地にも開発が進むようになりました。住民など関係者は一丁目から五丁目までのにぎわいにあやかろうと、五丁目に続く区域を六丁目、七丁目と改称するよう要望しました。

このことから、大正8（1919）年8月開会の平町議会において、榑宜町と正月町にまたがる立町の一部を字六丁目、正月町にまたがる榑宜町の一部を字七丁目へ改称することを決めました。

今と異なり、当時は福島県の承認が必要となっており、平町は変更申請を提出しましたが「^{えんこ}縁故ヲ有セザル^{ゆう}改称ハ詮議シ難キ」、つまりこれまでと縁のない地名は認められないとされました。

以降は長い間、通称として使われざるを得ませんでした。古い地図をみると、六町（丁）目、七町（丁）目の地名が見えますが、正式地名ではありませんでした。正式字名として六町目を迎えるには、平成10（1998）年の土地区画整理事業の施行に伴う字名改称まで待たなければなりませんでした。

なお、一丁目から五丁目までは「字」が付きますが、新たな六丁目には「字」は付けられませんでした。このときに由緒ある立町の字名は消失しました。



■写真 行政名は平字立町であるが、写真右隅に「六丁目」が見える
〔昭和17（1942）年9月 国道工事事務所提供〕